

被ばく低減対策好事例集

場 所		分 類		番 号	29-22
原子炉建屋内	RB	R 7	1 時間		
タービン建屋内	TB		2 距離		
R ZONE	R		3 遮へい		
Y ZONE	Y		4 線源の除去		
G ZONE	G		5 遠隔、リモット化		
その他 ()	Z		6 汚染拡大防止		
			7 その他		
内 容		超流動コンクリート材の開発・使用による作業量削減			
作業部位		3号機タービン建屋海側			
概 略		超流動コンクリート材を開発したことにより、新たなコンクリート打ち込み孔の掘削を省略でき、その結果、埋戻し等の作業も削減することができた。			
評 価 (定性 定量)	効 果	被ばく線量(mSv)	対策前 相対値1.0	対策後 相対値0.25	
		人工数(人日)	--	--	
事例詳細					
対策前		従来のコンクリートでは、水平部の流動性が悪く、新たなコンクリート打ち込み孔を掘削する必要があった(下図左)。			
対策内容		流動性の高いコンクリートを開発することで、新たなコンクリート打ち込み孔の掘削を省略できた(下図右)。			
◆在来工法		◆新工法を採用			
		既設立坑のみを打込みに活用			
◆長距離水中流動充填材の性能を生かした施工					
<ul style="list-style-type: none"> 中間打込み孔の省略 削孔, 打込み, 高さ計測, あと埋めの追加作業ゼロ 最小限の人員配置 1箇所からの打込み: 省人・省力化施工 		被ばく線量 : 約75%削減			